

## 随想

### 主権者としての鉄槌を下すとき

阿部敏勝（会員）

．はじめに

与野党双方による無責任な掛け引きで空転を続けた第180通常国会。重要法案は軒なみ棚ざらし、結局は増税だけで終了です。

そこで待たれるのが総選挙、主権者としての権原（権利の源）の行使です。

．民主党治政3ケ年間の総括（ツイッター調で記す政党通信簿）

（1）民主党

前回の総選挙。空証文（マニフェスト）のお陰で大勝し（308議席獲得）3年間の間に鳩山内閣（'09年9月～）菅内閣（'10年6月～）野田内閣（'11年8月～）と変わりましたが「知識、経験の不足」と「ガバナンス能力の欠如」で醜態続き。支持率も最底ラインを更新しつつあります（注1）

解散、総選挙が避けられないとあって原発政策や景気対策で亦々甘い声を出していますが国民はもう騙されません。

また、原子力基本法への「核安全保障」の組込み、「憲法改正に関する審査会の始動」等々自民党におもねる施策を次々とやっている事も国民はしっかりと視ております。

注（1）

8月度朝日新聞調査(電話)内閣支持率22% 党支持率13%  
同上 (郵便) 同上 27% 同上 14%

‘12/5度随想「日本国憲法施行55周年に思う」

- ．末期的症状の国会 ,わが国の議会制民主主義の問題点
- ．直接民主主義による補完が必要

（2）自民党

1960年代から始まった官僚との二人三脚。原発の恐怖や世界一の財政赤字がその結果です。

併し反省の弁は殆んど聴かれず利権の奪還に夢中でした。

先日行われました野田首相に対する問責決議、消費増税を民主党と謀って成立させておき乍ら、別の日には「問責」とは……。内外マスコミが言う通り、この党は「権力」だけが目的の「無節操集団」という他ありません。

それにこの党の目線は今や「憲法改悪」の仕上げに向けられて居り、去る4月には「国民主権」「不戦」「国際平和」を謳う前文を「良き伝統と天皇を戴く国家」に「象徴天皇を元首天皇」に、「憲法九条」を改廃して「国防軍」にと、戦前憲法へ逆戻りの改悪案を「憲法改正に関する審議会」へ提出、審議中です。

戦争の惨禍から生まれた憲法を守るために自民党の野望は許せません。

注(2)

‘12/9月号 月刊・憲法運動

開始された国会改憲論議

7月9日 衆院予算委員会にて

野田首相「集団自衛権」憲法解釈見直し検討発言

### (3) 公明党、共産党、社民党

これ等の政党は特定の宗教、特定の思想、特定の労組との関係が深いため、停滞の感じが否めません。併し、共産党と社民党は反原発、反戦を標榜しており、一部の市民層の希望の灯となっております。願わくは組織依存体質からの脱却と若ものの把握を。

### (4) みんなの党、大阪維新の会(9月中旬から政党化の予定)

いずれも2大保守党(民、自民)に次ぐ保守第3党を目指して居りますが、はっきり言って「憲法九条改廃」や「君が代教育」を掲げた右寄り政党です。特に大阪維新の会は時節柄「憲法改悪」「ナショナリズム」「復古」へのパートナーとして、あるいは「ポピュリズム」選挙の道具として既成党から秋波を送られています。併し現在報道されている人たちが国会議員団のリーダーとあってはたかが知れています。

従って今のブームは一時的なものと思います。（それにしても「衆院議員を半分に」「政党交付金カット」は実現できればたいしたものですが、憲法改悪と君が代教育との抱き合わせとあっては危ない危ない。

・むすび

以上主な政党についてツイッター調で総括をして参りましたが、はっきり申し上げまして今の国会は、議員各個人は勿論、制度上にも数々の問題があります。

例えば最高裁判所も指摘している「一票の格差」そして「制度全般の曖昧さ」です。この問題に関する討議の経過並びに現状は救い様がありません。文字通りの党利・党略が渦巻いて居ます。

従って鉄槌は選挙制度をゆがめ、改善を進めない国会全体に対して下さなければなりません。その意味で今度の総選挙では投票用紙に×をつけて投函したいと思って居ます。

参考資料（是非ご一読下さい。）

月刊、世界、特集「だれのための政治なのか」 '12/9 岩波書店

月刊、中央公論、特集「政治家は塾で育つか」 '12/9 中公新社

増刊、朝日ジャーナル、特集「政治の未来図」 '11/10 朝日新聞社

月刊、憲法運動

特集。開始された国会での改憲論議 '12/9 憲法会議

特集、自民党「日本国憲法改正草案」 '12/8 "

民主党、野望と野合のメカニズム、伊藤淳夫 '08/11 新潮社

松下政経塾が日本をダメにした、八幡和郎 12/2 幻冬社

（以上）